

2018年度第1四半期

 **決算補足説明資料**

アイペット損害保険株式会社（証券コード：7323）

2018年7月31日

収益指標

経常収益	3,465 百万円 (前年同期比 +21.9%)
調整後経常利益 (Non-GAAP)	229 百万円 (前年同期比 +3.6%)
調整後四半期純利益 (Non-GAAP)	168 百万円 (前年同期比 +66.7%)
経常利益 (Non-GAAP)	119 百万円 (前年同期比 ▲8.7%)
四半期純利益 (Non-GAAP)	578 百万円 (前年同期比 +5,784.7%)

保有契約件数 372,190 件 (前年度末比 **+16,677件**)

▶ **四半期の純増件数は、ペット保険会社で第1位を確保*。急速にシェアを拡大中**

コンバインド・レシオ

正味保険料ベース	88.8% (損害率 40.6%、事業費率 48.2%)
既経過保険料ベース	93.7% (損害率 43.1%、事業費率 50.6%)

ソルベンシー・マージン比率 397.2% (前年度末比 +112.4pt)

▶ **IPO に伴う増資や税効果会計の区分変更の影響で、大幅な改善**

(単位：百万円)

	FY17 1Q	FY18 1Q	前年同期比
経常収益	2,844	3,465	+21.9%
経常利益	130	119	▲8.7%
四半期純利益	9	578	+5,784.7%
調整後経常利益*	221	229	+3.6%
調整後四半期純利益**	101	168	+66.7%

* 調整後経常利益＝経常利益 ± 異常危険準備金影響額

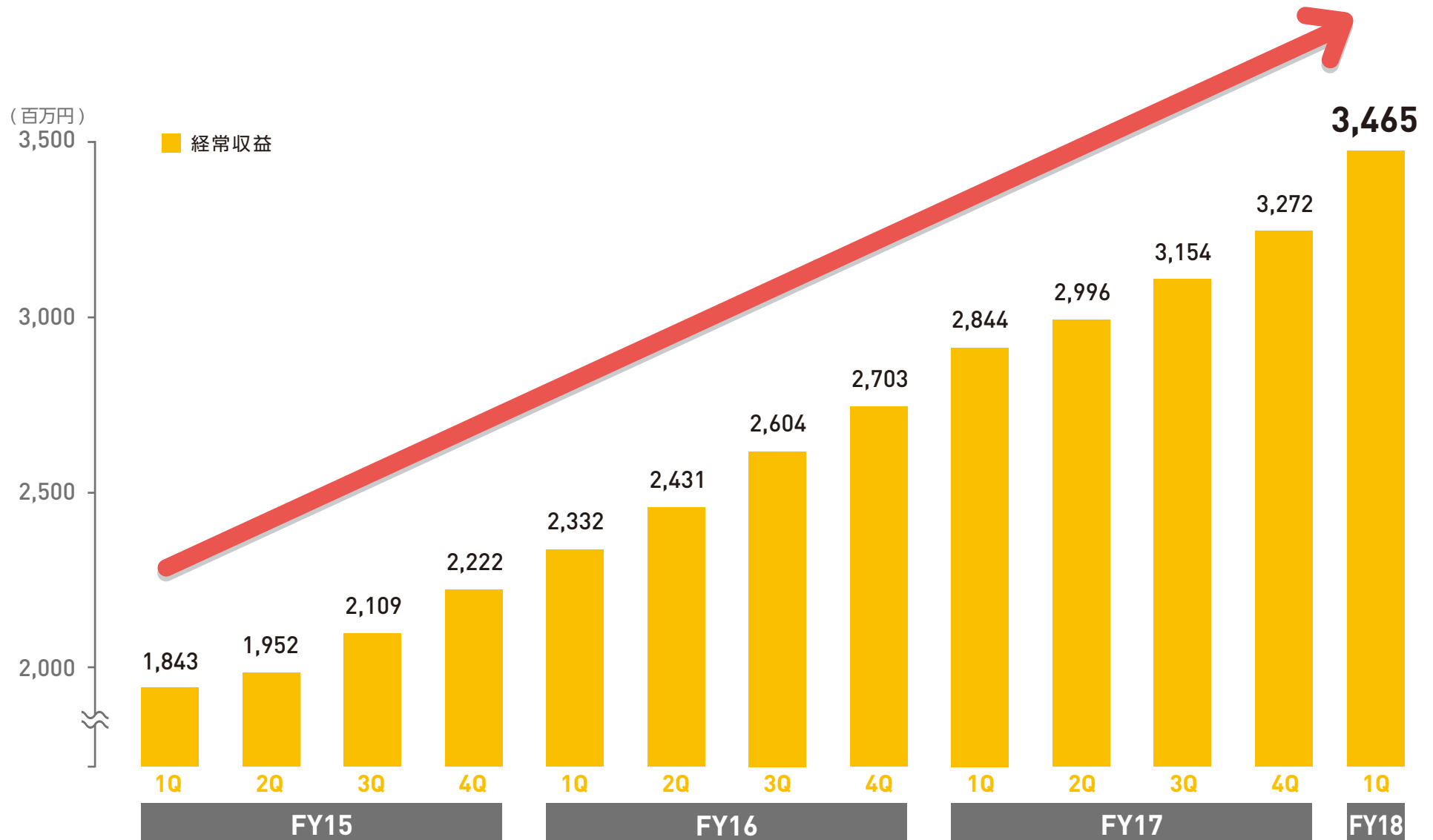
** 調整後四半期純利益＝四半期純利益 ± 異常危険準備金影響額

(参考)FY18 1Q の四半期純利益について

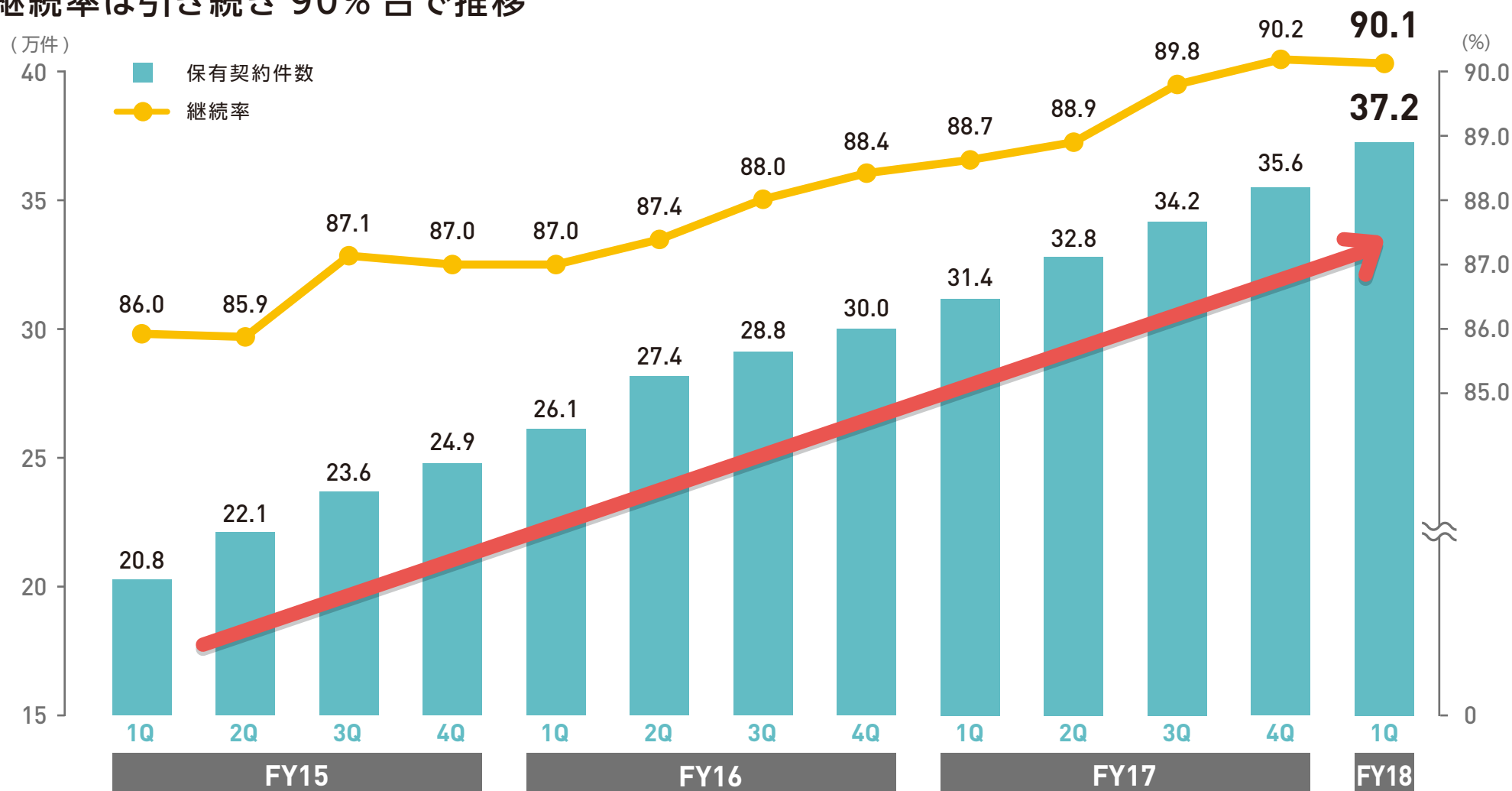
当四半期において税効果会計の区分変更があった影響で、従来スケジューリング不能であった異常危険準備金が全額スケジューリング可能になり、繰延税金資産 520 百万円を計上した。その分、四半期純利益が FY17 1Q に比べて大幅に増加している。

上記の影響を除くと、四半期純利益は 57 百万円 (前年同期比+489.7%) である。

- 保有契約件数の増加に伴い、経常収益は四半期毎に着実に増加



- 保有契約件数は順調な拡大を続け 2018 年 6 月末で 37 万件を突破
当四半期での純増件数は、ペット保険では業界第1位*
- 継続率は引き続き 90% 台で推移

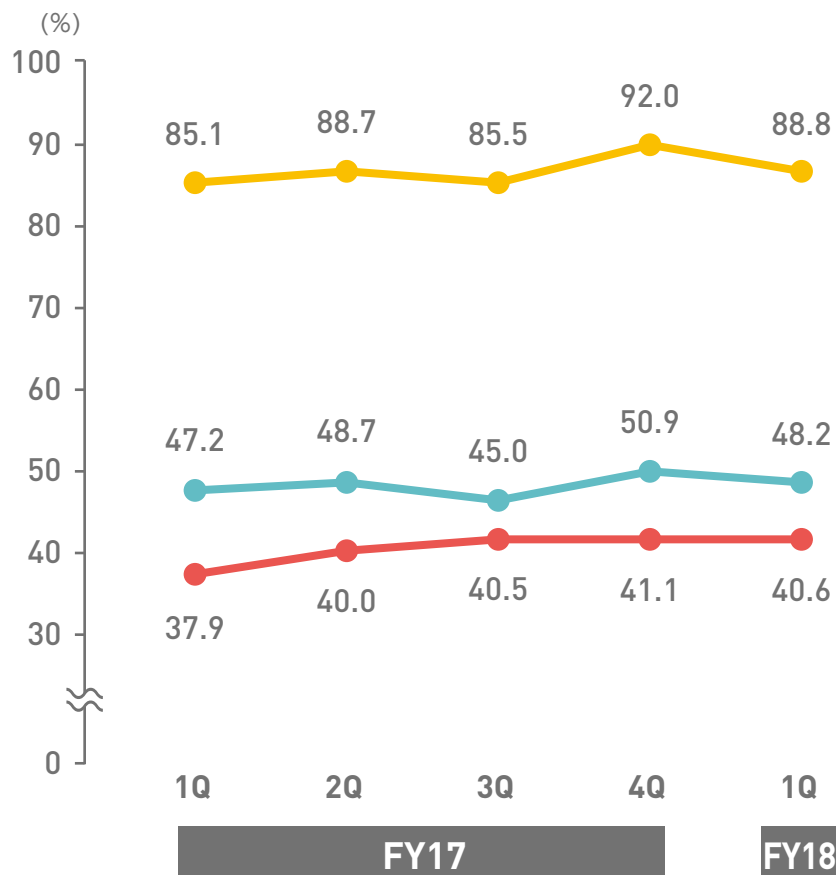


* 当社推計

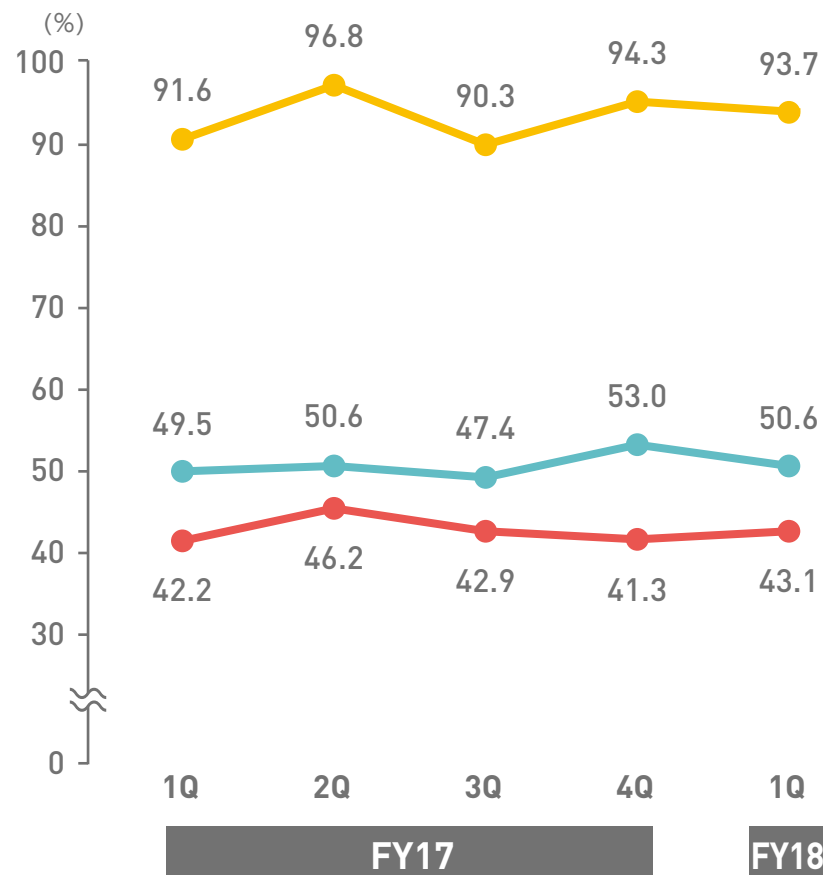
- ・ 季節変動はあるが、損害率、事業費率ともに概ね安定的に推移

● コンバインド・レシオ
 ● 事業費率
 ● 損害率

正味保険料ベース



既経過保険料ベース (E/I)



要約貸借対照表 (J-GAAP: 初年度収支残方式)

(単位: 百万円)

	FY17	FY18 1Q	前年度末比
資産合計	9,250	11,562	+25.0%
現金及び預貯金	4,666	5,983	+28.2%
有価証券	2,160	2,184	+1.1%
繰延税金資産	84	618	+635.6%
その他資産	2,339	2,776	+18.7%
負債合計	6,347	6,618	+4.3%
保険契約準備金	5,560	5,830	+4.9%
うち支払準備金	794	806	+1.6%
うち責任準備金	4,766	5,024	+5.4%
その他負債	786	787	+0.1%
純資産	2,902	4,944	+70.3%
資本金	3,315	4,040	+21.9%

主な勘定項目の増減理由

税効果会計の区分変更に伴い、異常危険準備金に係る繰延税金資産 520百万円を計上

FY18 1Qの主な構成

未収金 787百万円、未収保険料 796百万円、ソフトウェア仮勘定 430百万円

保有契約の拡大に伴う増加

FY18 1Qの主な構成

未払金 429百万円、賞与引当金 157百万円

IPOに伴う増資に伴い、1,449百万円を調達



補足情報



利益の推移

(単位：百万円)

		FY15	FY16	FY17
Non-GAAP	A) 調整後経常利益(未経過)(=B+C)	▲76	668	835
	B) 経常利益(未経過)	▲336*	345	444
	C) 異常危険準備金影響額	260	322	391

* 未経過保険料の算定方法を純保険料を基礎とした 1/24 法(月央基準)から、営業保険料を基礎とした 1/12 法(月末基準)に変更

- 当社は、経営者が意思決定する際に使用する社内指標(Non-GAAP: 未経過保険料方式)と日本基準(J-GAAP: 初年度収支残方式)に基づく指標の双方で経営成績を開示**
- 経営管理用の利益指標として、調整後経常利益(=未経過保険料方式の経常利益±異常危険準備金***影響額)を設定
- 異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、事業年度ごとに収入保険料に3.2%を乗じた金額を責任準備金として負債計上する必要がある(保険業法施行規則第70条1項2号)***
- 今後も業績予想は「Non-GAAP: 未経過保険料方式」のみで開示

** 上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社は当社以外は存在しない

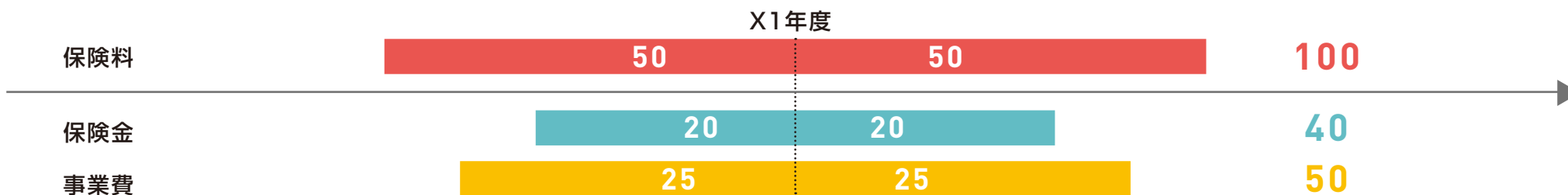
*** 当社の損害率が大蔵省告示第232号第2条の別表で記載されている基準損害率50%を下回るため

【参考】利益と保険会計の特徴について

- ・ 損害保険会社は、普通責任準備金として未経過保険料残高と初年度収支残高の大きい方を負債計上する必要がある（保険業法施行規則第 70 条 1 項 1 号）
- ・ 当社は、初年度収支残高が未経過保険料残高を上回っているため、会計上初年度収支残方式を使用も、経営管理上は、発生主義に即した未経過保険料方式を使用

初年度収支残方式と未経過保険料方式

(前提) ● 期中に一時払で 100 の入金、うち X1 年度末での未経過保険料 50
● 保険金、事業費はそれぞれ下図の通り



初年度収支残方式

	X1年度	X2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲45
準備金	55	▲55
利益	0	10

初年度の利益は 0

未経過保険料方式

	X1年度	X2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲45
準備金	50	▲50
利益	5	5

発生主義による利益

■将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。
- これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

本資料及び当社IRに関するお問合せ先

アイペット損害保険株式会社 財務経理部

TEL: 03-5574-8615 E-mail: IR@ipet-ins.com